

## 平成30年度 第1回千歳市総合教育会議 議事録

▼日 時：平成30年5月30日（水）13：00～14：30

▼会 場：千歳市役所議会棟2階大会議室

▼出席者

(構成員) 市長	山口 幸太郎
教育長	宮崎 肇
教育長職務代理者	佐々木 義朗
教育委員会委員	荒井 由紀恵
教育委員会委員	橋場 正人
(事務局) 企画部長	伊賀 宗徳
企画部次長	石田 肅一
企画課長	磯部 進一
企画課企画調整係長	小椋 雄二
企画課企画調整係主任	松本 亮大
(教育部) 教育部長	澤田 徹
教育部次長	千田 義彦
学校指導室長	小松 義幸
企画総務課長	伊藤 樹美
学校教育課長	高橋 裕輔
文化施設課長	倉島 毅
学校指導課長	佐藤 貢
企画総務課総務係長	田中 稔大

▼内 容

○伊賀企画部長

本日は、お忙しいところお集まりいただき誠にありがとうございます。

ただいまから、平成30年度第1回千歳市総合教育会議を開催させていただきます。なお、吉村恭子委員におかれましては、本日はご都合により欠席されるとの連絡を受けております。それでは、ここで山口市長からあいさつをお願いいたします。

○山口市長

本日は、お集まりいただきありがとうございます。

また、日頃から教育委員会の活動に対し、委員の皆さまにはご尽力をいただきありがとうございます。

本日は、定例となりましたが、この総合教育会議の内容について、忌憚のない意見を述べていただき、意見交換をしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

○伊賀企画部長

この後は、議長である山口市長が進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○山口市長

はじめに、千歳市教育施策の平成29年度の主な実施状況、また、平成30年度の主な取組について、事務局から説明をお願いいたします。

○澤田教育部長

「千歳市教育施策の平成29年度実施状況と平成30年度の主な取組」について、ご説明を致します。

お手元の資料1「千歳市教育施策の平成29年度実施状況と平成30年度の主な取組」をご覧ください。一昨年策定いたしました千歳市教育大綱により、重点施策と基本方針が位置づけられています。この項目に沿って、平成29年度と30年度の教育施策について、新規・拡充項目の主なものを中心に説明させていただきます。

(「千歳市教育施策の平成29年度実施状況と平成30年度の主な取組(資料1)」について説明。)

○山口市長

ただいまの説明の中で、課題となる案件について意見交換をしたいと思いますが、教育委員会の方で何か考えているテーマはありますか。

○澤田教育部長

例年取り上げておりますが、重点事項でありますことから「習熟度別少人数指導の推進」における学習支援員についてお願いしたいと思います。

○山口市長

では、現状の取組について説明をお願い致します。

○澤田教育部長

学習支援員につきましては、平成26年度に小学校10校に各1名を配置し、算数を対象とした習熟度別少人数指導を行っております。平成27年度には4名を増員して、小規模校を除く市内全13校のうち、北陽小学校に2名、他の小学校に1名を配置しております。

学習支援員の配置後、おおよそ3年間の取組を通じて子供たちの学習意欲の高まりや学力の向上などの効果が一定程度見られたこと、また、多くの学校からの学習支援員の増員要望を受け、平成29年度から2か年で更なる体制の強化を図ることとし、小学校では平成29年度に6名、平成30年度に2名を増員しています。この結果、小学校においては市の学習支援員が22名となり、北海道から措置されている加配教員15名と併せて、習熟度別少人数指導の充実が図られております。

また、中学校におきましても、標準学力検査の結果から、一年生の数学に課題が見られたことから、中一ギャップなどの対応も含め、数学における習熟度別少人数指導の充実を目指し、平成29年度に新たに2名の支援員を配置したところであります。また、今年度におきましては、新たに6名の増員を図ることとしておりましたが、中学校は教科担任制で

あることから、数学の免許を持っており経験のある教員に限られていることから、支援員2名の増員にとどまっている状況であります。このことから、中学校でも現在、4名の配置となっており、支援員の確保が課題となっている状況であります。

○山口市長

これは、教育委員会でも重要な取組として、毎年皆さん方にご意見をいただいておりますが、今の説明等を踏まえて、意見交換をお願いします。

○佐々木教育長職務代理者

いま部長から説明があったように、支援員について算数に力を入れようということで、昨年度の全国学力状況調査において、小学校の算数に伸びが見られました。これについては、支援員の強化が大きく影響していると思っております。さらにこれを踏まえて、今度は中学校の数学に力を入れることで更なる効果が見られるのではないかとプラスに感じております。

○橋場委員

全国学力状況調査において、算数の伸びが見られたということで、平成26年度からの積み重ねがあったからこそその結果ではないかと思えます。小学校で習う算数の基礎というのはとても大事なもので、中学校に入ってからでも小学校の頃の算数のイメージが大事だと思うので、引き続き頑張ってもらいたいと思います。

○荒井委員

中学校になると、算数から数学と科目の名前が変わることで、子供たちも敬遠するのかなと思うので、小学校で基礎をしっかり身に付けていただきたいと思えます。更に、数学という科目になってすごく難しくなると、できる子供はできるが、中学校3年間苦労している子供もいるので、是非数学の学習支援員を確保していただきたいと思えます。

○山口市長

実態をお聞きしたいのですが、特に理数科目というのは、基礎が分からないとなかなか追いついていけないということで学習支援員を配置しているわけですが、過去に積み重ねていなければならない基礎的なものが身につけていなければ、なかなか追いついていけないと思うのですが、その底上げはされてきているのでしょうか。

○小松学校指導室長

特に学習支援員を配置することで、例えば1クラスを担当の先生、道からの加配の先生、学習支援員、学校によっては担外の先生がつくなどにより、1クラスを2ないし4グループに分けて少人数への指導を行っています。その中で、特に習熟の遅いグループの子供たちにとっては、先生に聞きやすいし、先生からしても目が届きやすいので、次の学習までの課題となる部分を振り返りながら授業ができるという効果があると思えます。

○山口市長

端的な聞き方をするのは良くないかもしれないですが、例えば九九は何年生までに習うものですか。

○小松学校指導室長

2年生です。

○山口市長

そうすると、例えば3年生、4年生などで九九が分からない子供がいたら、いくら習熟度別少人数指導で手を貸しても、なかなか難しいと思いますが、そういうことも含めてわかるように指導しているのでしょうか。

○小松学校指導室長

市長がおっしゃるとおり、次の学年で割り算を勉強する際には九九を使いますので、その際には前の学年までの内容を振り返って復習しながら進めています。少人数で行うことで、より可能になりますので、そういう意味ではかなり役に立っていると思います。

○山口市長

もう一つ教えてください。子供にとって、読んだり書いたりする能力は日常生活で必要なのはわかりますが、算数や数学が必要なのか、子供に質問されたら何と答えていますか。

○小松学校指導室長

大まかに話しますと、将来自分が大きくなって仕事に就いて生活していく上で、学校で習う基礎的な計算は、どんな仕事でも必要になってくるので、しっかり勉強しましょうと伝えています。

○山口市長

進学に必要なだからという理由ではないのですね。

○小松学校指導室長

それももちろんあります。

○山口市長

学習指導員の募集はどうやっているのですか。

○澤田教育部長

今はハローワークでも募集をしており、ホームページや職員の伝手など、あらゆる方法で随時募集をしています。なかなか厳しい状況です。

○佐々木教育長職務代理者

教育大学などの、まだ先生になっていない学生さんの支援というか、ボランティアのよ

うな形で取り入れているところはあるのでしょうか。まだ資格を取得していない先生の卵として、学校のお手伝いをするようなことはしていないのでしょうか。

○宮崎教育長

それは既に実施しています。科技大生の中で、中学と高校の数学の免許を取りたい方を長期休暇中に募集しています。年間50名ほどに携わってもらっています。

○山口市長

それはインターンシップという形ですか。

○宮崎教育長

あくまでサポートという形です。免許取得を目指しているということは教員を目指しているので、学生さんたちも単に教えるだけではなく学校の雰囲気や子供たちとの関わり方を学ぶことができます。学校は、先生がもちろんメインですが、サポートをしてもらえればよりきめ細かな指導ができます。道教委も同様に他大学の学生を派遣する事業を行っているが、人数が少ないために希望してもあたらないのが現状です。当市では、科技大に教職課程があるとお聞きしたので、お話をして協力いただいている状況です。

○山口市長

重ねて質問します。子供がその科目を好きになるかどうかは、教えている先生が好きかどうかで決まってくる部分もあると思いますが、先生方は子供と接するにあたってどのような研修を受けているのですか。

○小松学校指導室長

一番は、分かる授業づくりをどのように進めるかが、子供たちが先生とその教科を好きになるかどうかのポイントだと思っています。授業改善、授業づくりの研修を、校内、校外問わず行っています。

○山口市長

学校の中で、例えば職員会議などのテーマにもなっているのですか。

○小松学校指導室長

各学校で校内研修のテーマを設けており、これに向けて組織的な研究を行っています。その中で、研修授業という形で、互いに読みあったり意見を言い合ったりしながら研鑽を続けています。

○佐々木教育長職務代理者

最近では物事の覚え方が変わってきていて、書いて覚えるのより見て覚えるような形になってきています。例えば電子黒板など、手品のように文字が浮かび上がってくるなど、手法が変わってきています。先生の中でも、電子黒板などをうまく使えるかの差が、授業が楽しいかそうでないかに関わってくると思います。

○山口市長

そういったことに対するスキルアップ研修は行っているのですよね。

○小松学校指導室長

当市としても研修会を行っていますし、各学校でもデジタル教科書や電子黒板の使い方研修を行っています。

○山口市長

最近では、子供たちの方がそういった機器の使い方は上手いかもかもしれませんね。

○宮崎教育長

電子黒板については管内でも導入が進んでおり、恵庭市でも今年度すべての学校に導入する予定となっています。北広島市は以前から導入しており、江別市は当市と同時期に導入しているなど、先生方はどこに行っても使わなければならない環境になっています。

○山口市長

最近はそのようなビジュアルを中心とした教育が主流となると、子供たちが仕事をする時にもそういった環境でないとスキルを発揮できないということですね。

○佐々木教育長職務代理者

最近では講演会などでもPCを使ったものがほとんどで、言葉だけの講演会はだんだん少なくなってきています。

○荒井委員

映像や音楽も取り入れていますね。

○山口市長

食いつきはいいけれども、本当に頭に残るのか、という気はしますね。

○山口市長

関連しますが、次のテーマについて伺います。読解力についてです。数学などでも読解力が必要な問題が出ていると聞いており、非常に大切であると思いますが、これについてどのような取組をしていますか。

○澤田教育部長

読む力が非常に大事になってくると考えています。これについては、担当から説明をいたします。

○倉島文化施設課長

読書活動の推進について、資料1の5ページをご覧ください。教育委員会では、平成17年に「千歳市子どもの読書活動推進計画」を策定し、読書活動の推進、読書活動の整備・

充実、読書活動の普及の取組を施策の柱にとらえ、子供の読書活動を推進してまいりました。平成26年度から32年度までを計画期間とする現在の推進計画であります「ちとせっ子読書プラン」では、子供たちがあらゆる時間と場所において自主的な読書活動ができるよう、読書環境の充実を図ることを基本目標とし、家庭、地域、学校、市立図書館が、それぞれの役割において読書活動を推進する施策に取り組んでおります。

また、学校図書館における学校司書についてですが、児童・生徒の読書活動の推進及び学校図書館の更なる充実を図ることを目的とし、平成25年度から学校司書の配置を行い、各学校における共通課題である学校図書館の環境整備や蔵書整備を中心に取り組んできたところであり、学校へのヒアリングの結果から、各学校からは環境整備が進んだ、児童・生徒の図書館の活用が増加した、といった回答があり、学校司書配置は一定の成果が得られたと考えているところです。事業の検証を行いながら、これまでも段階的に学校司書を増員してきたところですが、学校からは児童・生徒に対するリファレンス時間の増加、授業における学校図書館の活用相談の増加などの要望があり、これらの課題について平成30年度からは学校司書を3人工増員して2校に一人の配置とし、概ね1校当たり週に3日の配置となるよう拡大を図ったところです。

続きまして資料の8ページをご覧ください。中段にあります読書環境の充実についてですが、市立図書館における取組として、子供たちの活字離れが指摘される中、読んだ本の履歴を目に見える形で残すことにより読書への意欲を高める効果が期待される読書手帳を、4月23日の子ども読書の日から新たに配布を開始し、これまで330部の配布があったところです。読書手帳には、読んだ本の題名や作者のほか、本と真剣に向き合うきっかけ作りとなるよう、読んだ感想を書き込むスペースを設けるなど、子供たちの読書に対する意欲を高めるとともに、図書館の利用者増加につなげていきたいと考えております。

#### ○小松学校指導室長

続けて私から、学校での読書活動の取組について、具体例を基にお話をさせていただきます。学校では日常的な取組として、週に2、3回、10から15分程度朝読書の取組を続けています。また、朝読書や休み時間に教師による読み聞かせ、保護者や地域の方々のボランティアによる読み聞かせも行っています。他にも、子供たちの読書意欲を高めるために、読んだ本や自分の名前を葉っぱに書いて壁面の木に張っていく「読書の木」という取組や、読んだ本の数やページ数に応じて賞状を渡す「読書認定証」の取組や、新刊本、おすすめ本の紹介コーナーを作ったり、季節やテーマに合わせて図書館の壁面展示を工夫したりなど、読書環境の充実を図っているところです。また、4月23日の子ども読書の日や、10月から11月にかけて読書週間、読書月間を設定して、読書感想文や感想画を募集したり、児童生徒委員会において図書委員会の活動を集中的に行うなどしています。今申し上げたのは一例であり、各学校において学校図書館の担当や指導教諭を中心に、市の学校司書や市立図書館と連携しながら、読書活動の充実を図るため活動しています。

#### ○山口市長

この読書手帳は良いアイデアだと思いますが、市内のどこで配っているのですか。

○倉島文化施設課長

市立図書館のカウンターで配布しているほか、市立図書館のホームページからもダウンロードすることができます。

○山口市長

本人たちにとっての意味合いはどのようなものと考えていますか。

○倉島文化施設課長

これまで読んできた本の履歴を確認できることによって、友達と自分は何冊読んだとか、手帳も何冊目なのかを記載する欄もあるので、これを機会に図書館に足しげく通っていたりたいと考えています。

○山口市長

できるだけ多くの人に使ってもらえれば良いですね。では、意見があればおっしゃってください。

○橋場委員

私は、下の子供がまだ小さいのですが、学校に司書さんがいてよく話をするようなのですが、すごく良いアドバイスをいただいているようで、本を選ぶのが楽しくなってきたと言っており、それは良いことだと思います。食事中に、大人が使うような言葉が出てきたりするので、本を読むことは大事だと思います。私は小さいころあまり本を読まなかったので、今になって言葉の表現が少なくて後悔しているところなので、ぜひこれからも続けてほしいと思います。

○山口市長

学校司書の業務はどのようなものなのですか。

○倉島文化施設課長

平成25年度から配置しておりまして、今年度から2校に1校の割合で概ね週3日配置しておりますが、業務内容としては図書館のカウンター業務、資料の整理、破れた本の修理、本の除籍、受入、他にも読書イベント、例えば小学校の朝読の時間に学校司書が各教室を回って読み聞かせを行ったり、ブックトークという、題名に沿って本を選んでみんなで紹介しあうような企画を行ったりしています。また、大きな業務としてリファレンスというものがあり、例えば生徒が調べたい本について司書が紹介したり、検索を一緒にしたりする業務を行っています。

○山口市長

例えば生徒が、動物図鑑を読みたいと言ったら、どんな内容のものがどこにあるなどを教えてくれるということですか。



○倉島文化施設課長

そうです。あとは、中学生なら、こういったテーマでレポートが作りたいなどの要望があれば、一緒に本を探すなどです。

○荒井委員

私も子供が小学生の時に、司書さんが入る前に図書ボランティアの方が週に1回来てくれていて、装飾をしたり本を並べたり読み聞かせをしたりして活動していたようですが、図書ボランティアの方は年々減ってきていた状況でしたが、司書さんが入ってくれたことで、私たちの時は週に1回だったのが週に2、3回になり、図書館がとてもきれいになったり、本の配置や雰囲気などもすごく良いし、子供たちも手に取りやすいと思います。司書さんが勧めてくれることで本を手に取りやすい環境になることは、保護者としても助かっています。

○山口市長

確かに、子供たちは本を読めと言われても何から読んだら良いのか分からないかもしれないですね。

○佐々木教育長職務代理者

いわゆる本のソムリエのようなことなのですね。

○荒井委員

司書さんによっては、図書館から本を借りてきて紹介してくれる方もいらっしゃいました。

○佐々木教育長職務代理者

支笏湖などの遠隔地の場合はブックンという車が来て、その時間帯になると結構人が集まってきて、子供だけでなく大人も集まって本を借りていく姿を以前より見るようになったので、本を読まないといけないという認識は強くなってきていると思います。

今は試験問題も長文の問題がものすごく増えてきていて、それが国語だけでなく算数などにも長文の問題が多くなってきていて、本を読む癖や読解力がないと、問題も読まずにスルーしてしまうような、そんな問題が増えてきているので、やはり読むということは大切で、将来につながっていくものだと思います。社会に出ても一番大事なものは、文書やメールなどの読解力や表現力が必要になるので、やはりこれは、常に力を入れなければならないと思います。スマホやゲームが盛んになっているので、それをどう読書に時間を費やすようにするのかというところだと思います。

○荒井委員

ゲームなどに集中する子でも好きなことにはすごく集中力があるので、数は少ないですがスマホをしても読書をする子はするのだと思います。

○佐々木教育長職務代理者

最近はスマホでも読書ができますしね。

○荒井委員

漫画も読めますね。

○山口市長

その辺のところはバランスよく考えていると思いますが、例えば漫画も読書だと思うのですが、漫画というのは知識を得るには良いものだと思います。歴史の漫画などはすごく分かりやすいと思います。ただ、文書の中から何が本質かを選び取ることにはならないですよ。そういう読み取る、感じ取る読書というものを、司書さんには子供たちに勧めてもらいたいと思います。本を持つとっかかりとしては、漫画でも何でもよいと思います。読書手帳については、ぜひ改良を重ねてもらいたいと思います。これは誰が作ったのですか。

○倉島文化施設課長

市立図書館の司書が作成しました。

○荒井委員

小学校低学年などでは、何冊読んだかシールを張ることなどでもすごく喜ぶと思います。グラフ化することなども良いかもしれません。

○山口市長

総合教育会議で読書手帳が非常に話題になったことを司書の方にもお話しして、どうしたらもっと広まるか考えていただきたいと思います。

次は、家庭の教育力の向上・児童生徒の生活習慣の改善について、これまでも話をしてきましたが、その後の推移等について説明をお願いします。

○澤田教育部長

では、担当からご説明いたします。

(高橋学校教育課長から「家庭の教育力の向上・児童生徒の生活習慣の改善(資料2)」、「学力向上パンフレット」及びオリジナルクリアファイルについて説明。)

○山口市長

これは息の長い取組になると思いますが、今の説明について議論を進めたいと思います。

○荒井委員

今の説明にもあったように、始めた当初の知名度は2割程度しかなかったとのことですが、その後平成28年度中に市P連でも各学校を回って説明させていただきまして、29年度には各学校の年間計画に組み入れていただく事が出来ました。これにより、各学校の役員

の方をはじめ少しずつ浸透してきているのかなと思います。今年度も引き続き一人でも多くの方に知っていただくために活動してまいります。私は個人的に、小中学生になぜスマホを与えるのかというところをリサーチしたいと思っています。年々低年齢化してきており、数年前までは高校生だったのが、今では小学校高学年くらいでも持っている子が半分くらいいるとのことですので、親は危険を分かって与えているのかどうなのかも調べながら、家庭学習の状況ともリンクしながら調べてアンケートを取っていきたいと思っています。

○山口市長

スマホは難しい問題だと思いますが、流れとしてはそういう傾向なんだと思いますが、なぜ小さい子供に持たせるのでしょうか。

○荒井委員

おそらく連絡手段として買い与えるのだと思います。

○山口市長

かなり経済的負担も大きいと聞いています。

○佐々木教育長職務代理者

親の利用の仕方も問題があるのかもしれませんが。依存症のような状態になっている人もいます。

○荒井委員

中学生くらいになると、例えばテストで何点取れたらスマホを買ってあげる、などという家庭もあるようです。

○佐々木教育長職務代理者

市長も先日の会議でおっしゃっていましたが、今はそれを否定するより、どう運用していくかを考えなければいけないと思います。

○山口市長

そうですね。学校でも今はルールを作っているのですよね。

○小松学校指導室長

小学校では、基本的に学校へは持ってこないように指導しています。

○山口市長

例えば、子供にスマホを買い与えようにも子供がたくさんいて経済的に負担になる場合、学校で禁止されているからダメだと言って納得させることもできると思います。

○佐々木教育長職務代理者

中学校に公衆電話はありますか。

○小松学校指導室長

あります。

○山口市長

例えば用事があつたり遅くなって親に迎えを頼むなど色々あると思いますが、整理する必要がありますね。

○荒井委員

最近、スマホを持っていればボタン1つでつながりますが、いざ公衆電話で電話をするときに、親の携帯番号が分からないケースもあるようです。

○山口市長

これは、準備は大変かもしれませんが、このことをテーマにした何かをするというのは、時代の要請かもしれませんね。

遡って、家庭生活宣言を普及させるために色々作っているわけですが、学力向上パンフレットについて、私の感想から言うとちょっと硬い感じがします。家庭で気軽に使えるようなチェックシートなどがあっても良い気がします。

○荒井委員

クリアファイルについて、今回は子供宛てに配布していますが、母親がこれを使っていたという話もありました。保護者がこれを使って意識していただくのはありがたいと思いました。

○佐々木教育長職務代理者

やはりみんなで守ろうという意識付けを向上していくべきだと思います。亡くなった自分の父親は福島出身で、ならぬものはならぬ、ダメなものはダメだといつも言われて、何故かは分かりませんが妙に納得していた記憶があります。こういう教えなどは、常に言い続けなければならないと思います。親も子供も、できた時だけ見せるのではなく、玄関において毎日見るとか、工夫をしていかなければならないと思います。パンフレット自体はすごく良いと思います。

例えばパンフレットのコラムにある千歳物語についても、私も小さいときには分かりませんでした。ある程度青年会議所などでも活動して、これは千歳スピリットとして残していかなければならないと思って、子供にもよく話しています。もっと砕けた形で伝えていますが、こういうことを通して、千歳はすごいな、と誇れるような気持ちを持たせたいと思っており、伝え続けることが重要だと思います。

○山口市長

協働事業でやっているのだと思いますが、自己チェックできるような内容にはなってい

ますか。

○宮崎教育長

平成29年度はそこまでやっていませんが、平成30年度の取組に新たに付け加えることは可能だと思います。自己チェックについては、学校で配布している生活リズムチェックシートというものがありますが、スマホのフィルタリング等の細かい項目はありません。

○小松学校指導室長

家庭生活宣言そのものについてのチェックシートではないのですが、生活リズムチェックシートや保護者対象のアンケートなどを各学校で工夫して取り組んでおりまして、生活について家庭でどうしているのか把握しながら指導しています。

○宮崎教育長

それらを合体させることは可能だと思います。学校によっては、親にコメントを書いてもらうなども実施しています。アンケートについても、実施することが意識啓発につながるのので、そういうことの積み重ねが必要だと思います。全国学力状況調査で常に上位である秋田県では、そのような取組を何十年もやっていると聞きますので、これが結果につながっているのだと思います。

○山口市長

習慣という意味では、アンケートは1回だけなので、その時はそう思っても習慣化するのは難しいことだと思います。チェックシートであれば毎日チェックするので、誰に見せるわけでもなくとも、みんな自分に対する責任感を持っているので、習慣化されると思います。

○佐々木教育長職務代理者

特に小学校低学年では、嘘をつかないと思います。早寝早起きができていないけど付けてしまおう、という発想にはならないと思います。それがだんだん高学年になってずるさを身につけていくので、小さいうちからやらなければいけないと思います。

○山口市長

これは皆さん、親の立場で大いに期待されているので、こういう息の長い活動だからこそ協働事業にしたわけですね。

○荒井委員

おかげさまで私たち保護者からの声も届けやすく、教育委員会と一緒にやってくれることで学校も協力的で、学校便りなどのちょっとした隙間に載せていただくなど、地道な活動ではありますが進んでいると思います。

○橋場委員

私や私の周りの友人はよく知っていますが、中にはまだ関心の低い親御さんもいらっしゃ

やるようですので続けていかなければいけないと思いますが、掲示するところについて、地域の町内会に配布したり、市民カレンダーの隅に毎月載せるとか、バスや駅に張るなど毎日どこかで見るようにするのはどうでしょうか。

○佐々木教育長職務代理者

これは広報に載せたことはありますか。

○澤田教育部長

広報に載せたことはまだありません。

○荒井委員

紙で印刷して町内会で回覧して周知するというのはどうでしょうか。

○山口市長

別刷りで、我が家の家庭宣言として、おじいちゃんおばあちゃんにも参加してもらおうというのもいいかもしれないですね。

いずれにしても、これを更に進歩させていただいて、またこの会議で議論を深めたいと思いますので、事務局は検討してください。

では、こちらの「からふる」の中で補足が必要なことがあれば説明してください。

○澤田教育部長

1 ページ目には今話題になった学力向上パンフレットのことが載せてあります。2 ページ目は全国体力・運動能力等調査結果の概要ですが、千歳市の一番の課題は女子、特に中学校女子の体力が低いということが課題となっています。その下の学校支援地域本部事業については、地域の方々にボランティアで支援をしていただく取組で、今年度からは市内26校全てで実施を予定しています。その他、各学校の取組についてそれぞれ掲載していません。

○山口市長

学校閉庁日については何かありますか。

○澤田教育部長

教職員の長時間労働是正のために働き方改革の一環として、学校を閉庁するという取組を行います。長期休業中に1から3日、各学校で取り決めて実施してもらいます。一般的には、長期休業中、生徒は登校しませんが教職員は通常通り勤務しています。振替休日の取得もままならない学校もあるようですので、学校を完全に閉めることで振替休日や有休休暇の取得をしてもらうという取組です。

○山口市長

これについては良いですね。

○佐々木教育長職務代理者

一つ思いついたのですが、先ほど小学校低学年の子供は嘘をつかないという話をしましたが、子供に字を教えたり数字を教えたりするのは3、4歳くらいからだと思いますが、その親にいち早く理解をしてもらうことで、2年後、3年後に小学校に入るときに継続していく方が、本当は良いのではないかと、そういう方法がないかと思いました。幼児教育と学校教育は同じ部署ではないかもしれませんが、千歳に住む子供は保育所からそういう区分になれば良いと思います。市長の公約にも「子育てするなら、千歳市」というのがありますが、ただ単に経済的に子供が育てやすいだけではなく、こういうことを小さいうちからやっているという意識付けが必要かなと思い、それをやる方法がないものかと、私自身も模索したいと思います。

○山口市長

これは、保育行政、保育所それぞれの目指す方針や統一的なルールがありますから、その中に組み入れるというのは相当なエネルギー、調整が必要だと思います。しかし、同じ方向を向いているとすれば工夫次第で受け入れられるでしょうし、問題提起してもらえれば、それぞれの部署でそれを受けて何かをやることはできると思います。

それも含めて、さっき言ったような問題をどうやったら解決していけるのかということですね。キーワードは習慣化だと思います。

では、最後に教育長から総括をお願い致します。

○宮崎教育長

まず、家庭生活宣言は非常に大切に、これは継続的に取り組んでいくべきものです。今回は2年間の協働事業としていますが、事業が終わってからも継続していきたいと思いません。読解力については、今回の学力テストにおいて、これまではAとBのうちBに長文が出ていましたが、Aにも長文が出てきています。きちんと読むことができないと、問題を解くところまでいかず諦めてしまい、無答となってしまいます。今後の国の動きとしては、すべての教科で読解力を養うような方針のようです。最終的には国語ができるかどうかが大事成りますので、読書活動などを通じて読解力を養うことが非常に重要であることが、今回の学力テストで改めて分かりました。その点を踏まえて、今後の学校指導を行っていききたいと思います。

○山口市長

色々と意見交換をしましたが、課題となったことについては委員の皆さんに持ち帰っていただいて検討していただくとともに、議論が発展するように事務局にも努めていただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

それでは、少し時間は早いようですが、以上を持ちまして第1回総合教育会議を終了いたします。お疲れ様でした。

○伊賀企画部長

本日はどうもありがとうございます。最後に、事務局から1点ご連絡がございます。

今後の予定についてですが、第2回の会議については11月頃に「平成30年度全国学習

状況調査の結果」及び「教育施策」についてを議題として開催する予定ですのでよろしくお願い致します。

この他、緊急に開催する必要があると認められる案件が発生した場合は、随時開催いたしますので、よろしくお願い致します。事務局からは以上であります。本日はお疲れ様でした。